

第 60 回研究例会・2016 年総会報告

【目次】

第 60 回研究例会	
『国立国会図書館所蔵讃美歌目録（和書編）』へと結実した学びと経験	柳澤健太郎 1
パネルディスカッション「IAML 日本支部のこれからを考える <若手・中堅会員による検討会>からの提案」	久保絵里麻 澤田宏美 山本宗由 5
傍聴記	金井喜一郎 9
2016 年総会報告	11
事務局だより	15

【第 60 回研究例会】

『国立国会図書館所蔵讃美歌目録（和書編）』へと結実した学びと経験

柳澤健太郎

讃美歌目録とその背景

「国立国会図書館所蔵讃美歌目録（和書編）」（以下「讃美歌目録」と略）は、国立国会図書館の所蔵する日本語の讃美歌を、網羅的に紹介した書誌です。ここでいう「讃美歌」は、キリスト教の礼拝で用いられる個々の歌ではなく、その曲集つまり「讃美歌集」あるいは「聖歌集」という意味で用いています。『参考書誌研究』71号（2009年11月）の86-131頁に掲載されました。

去る2016年6月18日、IAML日本支部の例会にて、『国立国会図書館所蔵讃美歌目録（和書編）』作成の舞台裏」との演題で、この書誌を作成した際の体験談をお話ししました。ただし内容的には、既に「国立国会図書館所蔵讃美歌目録（和書編）：執筆の経緯とその特徴」と題して『キリスト教礼拝音楽学会ニュースレター』2011年春号に掲載された記事と重なる部分があります。執筆の直接のきっかけや経緯、将来に向けての課題といった点については、そちらの記事をご覧ください。

本稿では、上記の『ニュースレター』に書かなかった点を2つ記します。第一に、特に解説の執筆にあたり、これまで卒業・修了してきた大学での経験がどのように役立ったかを紹介します。いわば長大な自己紹介のようになってしまっていますが、恩義のある大学への謝辞のように受け取って戴ければ幸いです。第二には、多様な讃美歌の編纂された背景にある、多様なキリスト教会の成立史の概略を紹介します。

大学での経験

これまで卒業・修了してきた大学は、学部が3か所、大学院の修士課程（博士前期課程）が2か所に上ります。讃美歌目録の作成や解説の執筆にあたっては、就職の前後を通じて関わってきたこれらの大学での経験が、大いに役立ちました。大学教育の一つの成果として、ご参照

戴ければ幸いです。

第一の母校、国際基督教大学の教養学部では、讃美歌が文部省唱歌を初めとする日本の音楽教育に及ぼした影響への関心を与えられました。高校時代に J.S. バッハに傾倒したため、演奏の実技試験なしに音楽専攻へ入学できる、国際基督教大学を受験しました。しかし、演奏にも学問にも秀でた他の音楽専攻生たちの中にいて、お世辞にも優秀な学生とは言えませんでした。それでも音楽史の学びは楽しく、音楽鑑賞の幅が広がる中で、キリスト教礼拝音楽への関心は強くなりました。中でも、讃美歌目録の作成にあたって決定的に重要だったのが、手代木俊一先生のお話を伺ったことです。たしか西洋音楽史だったように思うのですが、伊東辰彦先生の科目のゲスト講師として招かれ、讃美歌の影響下に文部省唱歌が作られたことを強く印象付けられました。この点は、讃美歌目録の冒頭でも触れています。残念なことに、讃美歌目録の作成は、ちょうど手代木先生の『日本讃美歌・聖歌研究書誌』の作成時期と重なっていたため、直接に助言等を戴くことはできませんでした。しかし先生の作成された書誌や事典は、「分類」や「件名」といった通常の検索手段からは漏れてしまう資料をも含んだ網羅的な情報として、大いに活用しました。こうした先行する書誌との対応関係も、讃美歌目録には記してあります。

同じく第一の母校の国基大ですが、博士前期課程に進んだ大学院比較文化研究科では、アリスター・マクグラスとの出会いがありました。カトリックの修道会が設立した中学・高校を卒業し、学部生時代からは国際基督教大学教会の信徒となりました。そして同時に、福音派（後述）系のサークル「キリスト者学生会」との交流もあったため、キリスト教の様々な流れ、特に福音派と主流派（後述）との関わりに関心を持つようになりました。その中で出会ったの

が、福音派の指導的神学者と目されつつ、主流派の側からも高く評価されつつあった、イギリスの神学者アリスター・マクグラス（日本に紹介され始めた当時は「マグラス」と表記）でした。マグラスが讃美歌の重要性を強調していた記述も、讃美歌目録の冒頭で引用しています。

第二の母校の玉川大学通信教育部では、図書館や博物館で資料を保存し、後世に伝える意義を再確認する機会を得ました。図書館員としての基礎知識である「分類」「件名」の意義と、それを用いた検索方法といった技術的な側面については、就職浪人の頃、近畿大学通信教育部の司書課程で学んでいました。同じく就職浪人時代に学芸員課程を履修した玉川大学通信教育部では、博物館資料の保存への関心が高まりました。そこで就職後に再入学し、改めて図書館資料を保存することの意義を確認しました。図書館資料を保存するのは当然、それを死蔵するためではありません。必要とする人に資料が利用されることによって初めて、図書館資料を収集し、時代を超えて保存する営みが意義を持ちます。そして、保存することの意義を、利用者・未利用者に伝えることも重要です。ところで讃美歌目録の作成を通じて、讃美歌という切り口から資料を探す利用者の便宜を図ることができます。さらには、現在は市場に流通していない讃美歌を保存・提供する図書館の重要性を、それらを必要とする方々に伝えることもできます。このように考えると讃美歌目録は、保存してきた図書館資料の利用を促すとともに、保存の営みの大切さを伝える面からも、資料保存機関としての図書館に貢献するといえます。ちなみに玉川大学(玉川学園)と讃美歌との関わりでは、創立者である小原國芳が「全人教育」の旗印のもと音楽教育・合唱教育を重視しており（在学当時の通信教育部でも「全人教育(音楽)」という科目が全員必修で、5日ほどのスクーリングで「第九」の合唱に至

るのが目玉でした)、中でも世界の名曲が含まれている歌集として讃美歌を高く評価していたこと、日本の讃美歌史に大きく貢献した鳥居忠五郎や岡本敏明が教員を務めていたことも重要です。

第三の母校の放送大学教養学部では、日本キリスト教史の流れを整理し直す機会を得るとともに、日本文学の学びを通じて、近代詩歌への讃美歌の影響を知ることができました。讃美歌目録の冒頭では、明治期の讃美歌が、新体詩等の近代日本の詩文に及ぼした影響に触れています。それは、国語科の教員免許取得のために就職後に再入学した放送大学で受講した「近代詩歌の歴史」という科目を通じて知ったものです。ちなみに実は、その後は讃美歌から日本文学への影響はなくなっていくのですが、その点には触れませんでした。

第四の母校の東京大学大学院人文社会系研究科を通じては、「資源化」という視点を与えられました。讃美歌目録の作成当時は未入学でしたが、入学説明会には2000年から毎年通っていました。そこで強調されていたのは、未だ「文化財」として認知されていない事物に関心を持ち、その面白さや意義を伝えることで「文化資源」としていくという「資源化」という考え方です。このことは二つの面で、讃美歌目録の重要性を示します。一つには、玉川大学のところで述べたことと同じですが、国立国会図書館で所蔵されてきた讃美歌を、一群の讃美歌コレクションとして提示することにより、讃美歌研究の「資源」として活用できる可能性を開きます。もう一つには、讃美歌に関心を持つ方々の中に、国立国会図書館が讃美歌の調査に役立つことを意識されていない方があったら、そうした方々に国立国会図書館を活用する意義を伝える意味で「資源化」することになります。

このように大学での学び、大学からの刺激が、



筆者 2016.6.18

讃美歌目録の作成や解説の執筆の土台となっています。会員で大学にお勤めの方々には、大学教育の意義を再確認する機会として捉えて戴ければ幸いです。

キリスト教の諸教会の成立史（分裂史）

キリスト教の諸教会は現在、大別すれば、(ギリシャ) 正教会系の諸教会、(ローマ・) カトリック教会、プロテスタント諸教会の主流派、プロテスタント諸教会の福音派、の4通りになります。以下では、3つの段階に分けて、その成立史を概観します。なお、この3つに先立って、いわば第零の分裂があることに触れておきます。それは、三位一体を奉じる正統教会と、そうではない諸教会です。ローマ帝国公認後のキリスト教会は、創造主である父なる神、救い主である子なるキリスト(イエス)、教会や信徒を導く聖霊の、三位一体の教義を確認していきます。そこに加わらないまま現代まで伝わってきた諸教会も、中東にあります。例えばアルメニア使徒教会も、その一つです。ちなみに、エホバの証人や統一教会(世界基督教統一神霊協会)が時に「異端」と呼ばれるのも、三位一体の教義との関係が問題視されるためです。

三位一体を奉ずる正統教会の第一の分裂は、東方のギリシャ正教会と西方のカトリック教

会の分裂です。教義的な論争も関係しますが、東ローマ帝国と西ローマ帝国の版図とも重なります。正教会は各地域の教会を独立させるので、ギリシャの教会がギリシャ正教会で、ロシアの教会はロシア正教会となります。正教会の信仰を日本に伝えたのがロシア正教会の宣教師ニコライで、日本ではハリストス正教会といっています。お茶の水のニコライ堂や、函館のハリストス正教会が有名です。残念ながら、この系統の教会の出版物は、あまり納本されていません。

第二の分裂は、カトリック教会からのプロテスタント諸教会の分離です。16 世紀以来、ルター派教会の分離に続いて、様々なプロテスタント教会が成立していきます。カトリックの特徴を残したまま分離したイギリス国教会（日本では聖公会）には、カトリック寄りの高教会派と、プロテスタント寄りの低教会派があります。低教会派からは更に、カルヴァンの影響の強い長老派や会衆派、ウェスレーの宣教によるメソジスト派等が分離します。日本の大学の多くは、ルター派によるルーテル学院、聖公会による立教、長老派による明治学院や東京神学大学、メソジストによる青山学院や関西学院、バプテストによる関東学院や西南学院など、こうした教派を背景としています。ここまでの様子をまとめると、図 1 「19 世紀末頃までの諸教派」のようになります。

図 1 「19 世紀末頃までの諸教派」

諸教派は例示。網羅的ではない。

ル タ 派	ク エ カ ト	バ プ テ ス ト	メ ソ ジ ス ト (系)	会 衆 派	長 老 派	英 国 教 会 (高) (低)	正 教
	カ	ト	リ	ッ	ク		

図 2 「主流派と福音派」

福音派	メソジスト	長老派	会衆派	英国教会	正教会
福音派の連携					
教会一致運動					
カトリック					

第三の分裂は、プロテスタント諸派を横断する形での、主流派と福音派の対立です。19 世紀後半から、多様な教派を横断する形での超教派の運び「教会一致運動」が盛んになります。世界教会協議会（WCC）の設立は、その一つです。また、この時期には生物進化論や、聖書を歴史的な文書の一つとして研究する歴史的批判的な聖書学（高等批評）も成立しました。20 世紀前半から各教派の中では、カトリック教会を含む教会一致運動や、生物進化論、聖書の高等批評を認める傾向が強くなります。これに反発したのが根本主義（ファンダメンタリズム）の運動です。教会一致運動、生物進化論、聖書の高等批評に否定的な人々が、それまでの諸教派（これを主流派と呼ぶ）から離脱する形で形成されたのが、福音派の諸教会です。最近話題の森本あんり著『反知性主義』（新潮選書）で紹介しているのが、この福音派です。福音派の諸教派も WCC とは異なる形で、超教派的な組織を作っています。教派による差異はありますが、新しいゴスペル等の利用も積極的なようです。ここまでの様子をまとめると、図 2 「主流派と福音派」のようになります。現在では、根本主義に発する流れの中でも、自らを根本主義と呼ぶ流れと、自らを福音派と呼ぶ流れとがあり、それぞれに超教派組織があります。福音派のほうは、生物進化論や高等批評に対し、20 世紀前半ほどには否定的でないようです。東京基督教大学は超教派の福音派による設立

です。なお日本では、戦時中にプロテスタント諸教会が統合され「日本基督教団」を組織しました。戦後ここから離脱した諸教会もあり、特に福音派系の教会は多くが離脱していますが、現在の日本基督教団は、主流派の流れを中心としつつ福音派を一部含む形で存続しています。

こうした分裂の流れを頭に置いておくと、讃美歌目録の解説のみならず、讃美歌の通史も理解しやすくなるかと思えます。これらの諸教会の流れと対応する讃美歌については、讃美歌目録の解説を参照してください。なお、現在の福音派で用いられる歌集には『教会福音讃美歌』（いのちのことば社、2012年。KD351-L1）もあることを付記しておきます。

関連 URL (2016.8.25 確認)

「国立国会図書館所蔵讃美歌目録（和書編）」

<https://rnavi.ndl.go.jp/bibliography/tmp/71-07.pdf>

「国立国会図書館所蔵讃美歌目録（和書編）：執筆の経緯とその特徴」

<http://www.j-slm.jp/newsletter/pdf/nl2011ver2no9.pdf#page=3>

(やなぎさわけんたろう 国立国会図書館)

【お知らせ】

国立国会図書館企画展示「続・あの人の直筆」

国立国会図書館では、同館所蔵の歴史的人物や各界著名人の自筆資料（書状、書簡、原稿など）の展覧会を開催する。一昨年に続く企画で、今回は豊臣秀吉、西郷隆盛、吉田松陰、坂本龍馬、幸徳秋水、幸田露伴、夏目漱石、柳宗悦、内田百閒など120点。昨年度より公開を開始した作曲家林光の自筆譜も出品される。会期は10月15日（土）から11月12日（土）まで。会場は東京本館新館展示室。入場無料。10月22日（土）に中村健太郎氏による関連講演「あの人の直筆を鑑定する—古筆見のお仕事」がある（申込み制）。<http://www.ndl.go.jp/jp/event/exhibitions/exhibition2016.html>

【第60回研究例会】

パネルディスカッション

IAML 日本支部のこれからを考える

「若手・中堅会員による検討会」からの提案

久保絵里麻

1. 報告

本年6月18日、第60回研究例会にてパネルディスカッション「IAML 日本支部のこれからを考える～『若手・中堅会員による検討会』からの提案」が開催された。これに先立ち「若手・中堅会員による検討会」では、ニューズレター No. 57（2016年5月25日発行）掲載の「若手・中堅会員による検討会について（報告）」（金井喜一郎）に則して、「IAML について」、「例会について」、「ニューズレターについて」の3項目についての検討を始めた。

筆者が発表を担当したテーマは、「IAML について」という包括的なタイトルではあるものの、課題は(1)広報活動の充実、(2)会員間の交流の場をつくること、の2点に集約される。それに対して、検討会で出された提案は下記のとおりである。

(1) 広報活動の充実

- ・大学等の先生や図書館員から学生へ周知する。
- ・音楽学会等で宣伝する。
- ・非会員の図書館にも例会案内を行う。
- ・組織の第一印象となるホームページ(以下、HP)をリニューアルし、音楽関係デジタルアーカイブのポータルや、資(史)料探索に関する体験談を掲載する。
- ・HPへの呼び込みや若手層の入会を促すために Facebook を利用する。

(2) 会員間の交流の場をつくること

- ・メーリングリストや Facebook を利用する。



久保隼里麻氏

目的は、資料の所在やデータベース、人事などの情報、問題と解決策の共有、気軽な交流である。モデルとして、IAML 本部や米国音楽図書館協会の例が挙げられた。

ちなみに、我々検討会での全議論が、約 5 か月の間メーリングリストと Google Document によってほとんど問題なく行われたことを付記しておく（例会を経て検討会メンバーが増えた現在は、改善点を検討中である）。

以上は、例えば音楽学者と音楽図書館司書との連携を生むなど、IAML 日本支部が利用者とアーカイブを結ぶ場となることを目標として提案されたものである。また、HP などで発信する内容が充実していれば、今後、「日本の音楽資料 = IAML 日本支部」という認識の下で、広く一般にまで利用される可能性も見込まれる。

2. 「若手・中堅会員による検討会」の役割について

本年 1 月に入会したばかりの筆者にとって、今回、検討会の一員として携わる機会を頂けたことは幸運であった。IAML への入会を決めてから過去のニューズレター（1982-）の通読を始め、IAML 日本支部の意義を改めて知ることとなったが、それは同時に、検討会が果た

すべき役割を知るために必要な手順でもあった。検討会の役割のひとつは、過去 35 年のあいだに築かれた IAML 日本支部の功績を一般にまでわかりやすく伝えることだと考えている。今回提案したホームページのリニューアルや Facebook の利用は、あくまでも、こうした価値ある情報を見つけやすくするための手段にすぎないが、今後も、多様なメンバーそれぞれの立場から出される提案をもとに検討会が少しでも貢献できるよう活動を続けてゆきたい。

検討会は、会員の皆様のご理解を頂いて、はじめて役割を全うすることができる。次回 11 月の例会で「検討会枠」（ローマ大会参加報告）が設けられる等、検討会の意見が反映されていることに、ここで改めて感謝を申し上げるとともに、引き続き皆様からのご指導を賜りたくお願い申し上げます。（くぼえりあ）

澤田宏美

筆者は「例会について」を提案することになった。今年 1 月に行われた「若手・中堅会員による検討会（仮称）」での議論をもとに、例会の役割を特に「若手」という視点で改めて検討し、当日は次の 2 点をポイントとして発表した。

1. ベテランと若手をつなぐ場
2. 研究者、図書館員、企業をつなぐ場

「1. ベテランと若手をつなぐ場」については、今後の課題の一つである、より多くの若い世代に IAML 日本支部に参加してもらうため、非会員でも参加が可能な例会は最初のステップになりうることや、事前の議論で出た若手はベテランの先生方の資料や調べ方に対する豊富な知識を求めているという意見を踏まえ、以下の 3 つの提案を提示した。

① ベテランの先生方の若手向けの講演を行う
資料探索の方法、資料への知識などお話しした



澤田宏美氏

だく機会を設ける。大掛かりでなく、先生方のこれまでのご経験（例えば IAML 日本支部の歴史など）を語っていただくだけでも大変有意義だと考える。

② 若手の発表の場を試験的に設ける

毎回の例会に「若手中堅会枠」を設けていただく。発表者は多くの刺激と経験を得られる上、発表をきっかけに IAML 日本支部に興味を持つかもしれない。

③ 大学図書館・Facebook で例会の告知を出す
例会開催のお知らせを若手に向けて効果的に周知する方法として、音楽大学図書館の掲示板に張り紙をするなどのほか、Facebook 等インターネットの使用も考えられる。実施にあたっては検討が必要だが、一般大学の若手図書館員等が音楽図書館・音楽資料に興味を持つかもしれない。

「2. 研究者、図書館員、企業をつなぐ場」については、IAML 日本支部の例会には、研究者・図書館員・企業など異なる立場の人が集まるといった特徴について改めて指摘した。難しいことだが、例会の場を生かしそれぞれの立場が専門を発揮し不足を相互にカバーすれば、音楽図書館・音楽資料をとりまく環境を良くすることも可能ではと考え、例として次の二案を提示した。

① 学生向けの資料探索法の講義の実施

事前の検討会の中でも体系的に音楽資料の探索

方法をレクチャーすることの難しさが指摘されたが、三者が連携し、研究者からは専門性に富んだ資料探索法を、図書館員からは図書館の基本的な方法を、企業からは新しい資料形態であるデータベースの使用法をレクチャーするなど、それぞれの得意な点を持ち寄ることで、体系的なレクチャーに近づけることが可能ではないだろうか。

② デジタル化やデータベース構築

最近盛んに話題となっている分野であるが、製作にあたっては各方面への専門性が問われることが多い。ノウハウを三者で共有することで、専門的でかつ実態に即した、利用しやすいメタデータ・データベースづくりが可能になる可能性は高い。

発表後のディスカッションでは、例会の座席を円形にするなどの雰囲気作り、発表者の公募、実施後来場者からアンケートをとる、発表を Ustream 配信するなどの意見が出た。

「例会について」は以上である。発表は多分に私見を交えたものになってしまったが、これまで多くの努力や思いによって継続されてきた IAML 日本支部例会のさらなる発展のきっかけになれば幸甚である。 (さわだひろみ)

山本宗由

話し合いの流れで、筆者は「ニューズレターについて」の提案を担当することになった。IAML 日本支部のニューズレターは、現在我が国で音楽図書館学を専門に扱った定期刊行物として、ほとんど唯一のものである。そのため、日本の音楽資料や音楽図書館に関する情報発信源として、大きな責任を持っていると考えられる。また、ニューズレターは IAML 日本支部の活動を外部から見ることができる、数少ない媒体である。IAML の会員

増加という側面からみても、よりよいニューズレターのあり方を検討することは意義のあることだといえる。

今年 1 月に行われた「若手・中堅会員による検討会（仮称）」の第 1 回検討会の際には、ニューズレターの内容に対して、図書館業務に活かせるような内容があると良い、費用削減のために紙媒体での配布をやめてはどうか、などの提案事項が挙げられた。

第 1 回検討会の内容を膨らませ、パネルディスカッションにおいて提案した事項は主に次の 3 点である。

- (1) ブックレビューや論文の投稿
- (2) レファレンス記録の紹介
- (3) 電子化（冊子体を減らす）

まず、(1) ブックレビューや論文の投稿に関しては、図書館情報学や音楽学の学・協会誌においては一般的に行われていることであり、ニューズレターの価値を高めるという点から導入の意見が出た。ブックレビューの投稿などは過去の音楽図書館協議会（以下、MLAJ）のニューズレターの性格に似ており、MLAJ ニューズレターは大変参考になっていたとの話も出た。

パネルディスカッションにおいては、論文の投稿はハードルが高いが、せめてブックレビューから始められないかと提案した。IAML の目的を考えれば、例えば新しい音楽のレファレンスブックや目録などが、レビューの対象として該当するだろう。投稿されたブックレビューから、図書館員は選書の参考や音楽分野の勉強に、音楽学者は最新の情報収集に役立てることができると想定できる。

次に、(2) レファレンス記録の紹介であるが、これには音楽図書館員の情報共有とステップアップ、さらには IAML への積極的な関与が目的としてある。現在、音楽図書館員が情報共有できる場は限られている。その上、図書館員



山本宗由氏

の非正規雇用が進み、継続的な教育もままならなくなってきている。そんな状況において、ニューズレターが情報共有の役割を果たし、非正規職員も含めた音楽図書館員のステップアップの材料になれば、IAML への関心につながるのではだろうか。

また、現在の IAML の中心メンバーが音楽学者よりになっていることもあるため、レファレンス記録の掲載によって、図書館員がニューズレターに積極的に関与できるきっかけにもなると考えられる。

最後に、(3) 電子化であるが、現在ニューズレターは IAML 日本支部のホームページ上で公開されている。そのため、電子化というよりは冊子体での刊行をやめるとというのが提案内容である。この点については、冊子体の配布を求める人もいることから、配送希望者にのみ配布し、希望者からは印刷費や郵送費などの必要経費を徴収するという案が出た。

以上がニューズレターに関する提案内容である。今回提案した事項については賛否両論あると考えられるが、ニューズレターのあり方について新たな視点を提供できたのであれば幸いです。（やまもと むねよし）

【第60回研究例会】

例会傍聴記

金井喜一郎

2016年度総会に引き続き、第60回例会が開催されました。プログラムは、国立国会図書館の柳澤健太郎氏による「国立国会図書館所蔵讃美歌目録（和書編）作成の舞台裏」および若手・中堅会員によるパネルディスカッションでした。

最初の発表者である柳澤氏は、国際基督教大学にて音楽を専攻し、現在は国立国会図書館（以下NDL）の逐次刊行物・特別資料課長補佐を務められています。発表にあたって、『参考書誌研究』第71号が会場の参加者全員に配付されました。同資料には、「国立国会図書館所蔵讃美歌目録（和書編）」の作成に関わる柳澤氏の記事が掲載されており、今回の発表は、この記事の補足説明という位置づけでなされました。発表は3部構成となっており、第1部「作成の経緯と自己紹介」では、まずご自身の経歴が紹介されました。柳澤氏は、キリスト教徒で、2000年のNDL入職と同時に聖書研究会というサークルに入会したとのことでした。また前述のとおり大学では音楽を専攻されたこともあり、この仕事を引き受けたそうです。実際の作成作業では、既存の書誌とNDLの書誌との照合がなされました。これは現状の検索では漏れやノイズが発生してしまうためです。具体的には、タイトル（讃美歌、讃美歌、聖歌）や件名（讃美歌、ゴスペルソング）、分類（196.5、765.6）によって大部分は検索できるのですが、このような検索条件では、検索ノイズや漏れが生じてしまいます。例えば、楽譜ではなく研究書や解説書がヒットしてしまったり、逆に、楽

譜であってもタイトルや件名に「讃美歌」等が含まれていない場合、あるいは分類が190（キリスト教）の場合には、検索から漏れてしまいます。このような検索漏れを避けるためには、既存の書誌を自らが確認する必要があったようです。

第2部「将来への課題」では、①現在PDFファイルで提供されている目録を将来的にはデータベース上で提供できるようにしたいこと、②本文画像への直リンク張ること、③和書以外（洋書、録音・映像、手話など）に範囲を広げること、④納本が不十分である状況を改善することが挙げられました。確かに現状では、そもそも③④のため目録の対象資料がかなり限定されています。さらに、①のため、PDFファイル上の文字列の検索しかできません。また、②のため、本文画像にたどり着くにはいくつかの段階を経なければなりません。このような状況ですので、ぜひ改善してもらいたいと思います。

最後に、第3部「解説の背景とキリスト教史」では、キリスト教と讃美歌の歴史が紹介されました。

発表の後、会場からは、NDLでの楽譜等の扱いについて、質問と要望がありました。具体的には、現在NDLでは、目録上、楽譜は図書と同様に扱われているため、楽譜の特徴に十分な対応ができていないと言いつつ、NDLといえども労力には限りがあるので、相対的にマイナー（少数）な資料である楽譜にまで対応することは難しいとのことでした。言い換えると、どうしても図書を優先せざるを得ないということです。これに関しては改善を求める声が会場から上がりました。

続くパネルディスカッション「IAML日本支部のこれからを考える～“若手・中堅会員による検討会”からの提案」では、伊東辰彦先生の司会の下、検討会に参加して下さった3

名の方(久保絵里麻氏、澤田宏美氏、山本宗由氏)と会場の参加者との間でディスカッションがなされました。「若手・中堅会員による検討会」(仮称)は、第 59 回例会にて経緯や趣旨が報告され、また newsletter no. 57 では第 1 回検討会での具体的な検討の内容が報告されました。本ディスカッションは、これまでの経緯を踏まえて、IAML 日本支部の今後を考えるものです。まず、同会の発起人である私(金井)がこれまでの経緯を簡単に紹介した後、newsletter no. 57 で挙げられている課題を「IAML について」、「例会について」、「ニューズレターについて」の 3 領域に区分して、各人が発表を行いました。「IAML について」では、IAML の広報や会員同士の交流や情報交換のためのメーリングリスト、ホームページの改善、Facebook の活用などについての具体的な意見や、米国を例にして IAML 日本支部と音楽図書館協議会の合併の可能性にもふれられました。「例会について」では、実務に即した内容、発表者の公募、ワークショップの導入、などの意見がありました。「ニューズレターについて」では、ブックレビューや論文の投稿、レファレンス事例の紹介、経費削減のための電子化などの意見がありました。発表に際しては、3 名で入念な準備(メーリングリスト上での議論など)をしており、明確な役割分担がなされていました。発表時間は各 10 分の予定でしたが、意欲の現れか、3 名ともかなり時間オーバーとなりました。いずれの発表も考えさせられる内容で、例えば IAML 本部のホームページを見ますと、メーリングリストの案内がありますし、実際にメーリングリスト上では活発な議論がなされています。また、Facebook のアイコンをクリックすれば、Facebook のページへ移動することができます。Twitter についても同様です。全体的に“今風(いまふう)”の見た目や構成になっています。決して“今風”が良くて“古風(こふう)”が悪い

ということではないのですが、技術的に古いと非対応のシステムや技術が多くなるなどの欠点がでてきますので、個人的には“今風”が望ましいと思います。彼らの意見に対する会場の反応は、発表後のディスカッションでの様子を見る限り概ね良好で、さらに、発表を後押しするような以下の意見も挙がりました。

- ・ 会場に来られない人のことを考えなければならぬ。そのような人たちのために、会場の様子を Ustream や You tube で配信することもできるはず
- ・ 「面白いことをやっている」ことを広く一般に情報発信する
- ・ 図書館員だけではなく、一般の人々も音楽情報を欲している

これらの意見は、若手・中堅を鼓舞する意味がもちろんあると思いますが、若手・中堅ということは抜きにして、もしかすると現在の日本支部に欠けていることかもしれません。そのように考えると、「若手・中堅会員による検討会」をきっかけとして、われわれ“ベテラン”もあらためて日本支部のあり方を考える必要があるのかもしれない。

最後に荒川支部長から「今回の発表で終わらせるのではなく、行動して、実現させてもらいたい」とのお言葉をいただきました。彼らが、発表の際の熱意を維持できれば、きっと実現してくれると思います。ただ、実現に際しては多くの困難が待ち受けていることでしょう。それらの困難をぜひ乗り越えてもらいたいと思います。もちろん、私は検討会の発起人として、残された期間(役員任期終了まで)、彼らをバックアップしていきたいと思っています。

(かない きいちろう)

国際音楽資料情報協会 (IAML) 日本支部
2016年総会報告

日時：2016年6月18日(土) 午後1時～
2時

場所：東京音楽大学附属図書館

出席(22)：荒川恒子、伊東辰彦、稲葉良太、小倉洋子、加藤信哉、金井喜一郎、岸本宏子、久保絵里麻、栗林あかね、佐藤仁美、佐藤みどり、澤田宏美、田島克実、藤堂雍子、鳥海恵司、長谷川由美子、平岩寧、柳澤健太郎、山本宗由、林淑姫、東京音楽大学附属図書館、株式会社トッカータ

委任状提出(33)：石田康博、伊藤真理、植田栄子、金澤正剛、加納マリ、久保田慶一、佐古純子、佐々木勉、上法茂、嶋田弘美、高橋美都、西巻悦子、土田英三郎、寺本まり子、樋口隆一、星野宏美、細田勉、正木光江、三田智子、柳原和音、大和紘子、米田かおり、アカデミア・ミュージック株式会社、上野学園大学音楽・文化学部図書館、エリザベト音楽大学附属図書館、大阪芸術大学図書館、国立音楽大学附属図書館、昭和音楽大学附属図書館、桐朋学園大学音楽学部附属図書館、同朋学園大学部附属図書館、名古屋芸術大学附属図書館、フェリス学院大学附属図書館、明治学院大学図書館付属遠山一行記念日本近代音楽館

会員総数：77(個人会員59、団体会員18)

I 開会挨拶 荒川恒子支部長

II 議長選出 田島克実氏

III 総会成立の確認

出席22、委任状提出33、合計54。

会員総数77の過半数に達し、総会成立

IV 議案審議

1. 2015年活動報告(資料①)

会員の異動

入会：鳥海恵司氏、宮崎晴代氏、久保絵里麻氏、佐藤仁美氏、柳澤健太郎氏、アカデミア・ミュージック株式会社、株式会社トッカータ
退会：天野裕介氏、関根和江氏

承認

2. 2015年会計決算報告並びに会計監査報告
(資料②)

承認

3. 2016年活動計画(資料①)

承認

4. 2016年予算案(資料③)

承認

5. その他

RILM委員を宮崎晴代氏、山田晴通氏、稲川香於里氏に委嘱

承認

V 議長解任

VI ローマ国際大会代表出席者および大会参加費助成

代表出席者 荒川恒子支部長

大会参加費助成 山本宗由氏

VII 閉会

国際大会の代表出席者について質問があった。国際大会の代表出席者は原則として支部長もしくは事務局長である。支部を代表して報告等を行う。また、例会等の通知をより早めにという要望が出された。通知は遅くとも開催一か月前には届くよう発送しているが、企画の詳細が決定され次第HPでも広報している。そちらも是非参考にしていきたい。

今年の総会は出席者も比較的多く、一般の方の見学も加わって賑わった。活発な意見交換が行われた。

(文責・長谷川由美子)

資料①

2015 年活動報告および 2016 年活動計画

【特記報告】「会員サポートおよび支部活動支援のための基金」設置（2015 年 6 月）

	2015 年活動報告	2016 年活動計画（中間報告及び予定）
国際大会	ニューヨーク国際大会 2015 年 6 月 21 日 -26 日 出席者：荒川恒子、藤堂雍子、関根敏子、樋口隆一 代表出席者：荒川恒子	ローマ国際大会 2016 年 7 月 3 日 -8 日 出席者（予定）：荒川恒子、伊藤真理、藤堂雍子、山本宗由、那須聡子 代表出席者：荒川恒子
総会	2015 年 6 月 6 日（土） 場所：東京音楽大学付属図書館	2016 年 6 月 18 日（土） 場所：東京音楽大学付属図書館
役員会	2015 年 1 月 22 日（木）（東京文化会館応接室） 2015 年 3 月 26 日（木）（東京文化会館応接室） 2015 年 6 月 6 日（土）（東京音楽大学付属図書館） 2015 年 10 月 24 日（金）（東京文化会館応接室）	2016 年 3 月 18 日（金）（東京文化会館応接室） 2016 年 6 月 9 日（木）（東京文化会館応接室）
研究例会・集会	第 58 回研究例会 2015 年 6 月 6 日（日）（東京音楽大学付属図書館） 1. IAML 日本支部の課題 荒川恒子 (IAML 日本支部長) 2. 玉川大学教育博物館における音楽資料ーガスパー・カサド及び原智恵子関係資料を中心に 栗林あかね (玉川大学教育博物館) 第 59 回研究例会 2015 年 11 月 28 日（土）（国際基督教大学図書館） 1. 「ジャズという音楽」および「大学図書館専門職員の専門職化」 利根川樹美子 (国際基督教大学) 2. 音楽専門図書館の先駆「南葵音楽図書館」の成立と展開 林淑姫 3. 「若手・中堅図書館員による検討会」の発足について（報告） 金井喜一郎 (昭和音楽大学短期大学部)	「若手・中堅会員による検討会」 2016 年 1 月 30 日（土）（昭和音楽大学附属図書館） 第 60 回研究例会 2016 年 6 月 18 日（日）（東京音楽大学付属図書館） 1. 「国立国会図書館所蔵讃美歌目録（和書編）」作成の舞台裏 柳澤健太郎 (国立国会図書館) 2. パネルディスカッション「IAML 日本支部のこれからを考える～『若手・中堅会員による検討会』からの提案」 久保絵里麻、澤田宏美、山本宗由 第 61 回研究例会（未定）
ニューズレター	第 52 号 2015 年 1 月 30 日 アントワープ国際大会報告 号外（特別号） 2015 年 2 月 10 日 第 53 号 2015 年 5 月 25 日 第 57 回研究例会報告 第 54 号 2015 年 9 月 30 日 第 58 回研究例会・2015 年総会報告 第 55 号 2015 年 12 月 10 日 遠山一行初代支部長追悼号	第 56 号 2016 年 2 月 10 日 IAML / IMS ニューヨーク国際大会「デジタル時代の音楽研究」報告 第 57 号 2016 年 5 月 25 日 第 59 回研究例会報告 第 58 号 2016 年 9 月 30 日（予定）
ホームページ更新/ニューズレター掲載	ニューズレター掲載 No. 52 (2/23), 号外 (3/10), No. 53 (5/26)、No. 54 (10/16) その他必要な更新や掲載	ニューズレター掲載 No. 55 (1/16), No. 56 (2/26)、No. 57 (6/11) その他必要な更新や掲載
その他	国立国会図書館「音楽資料・情報に関する遠隔研修教材の開発に対する意見聴取会」に林副支部長を派遣 (2015 年 1 月 16 日) フォンテスへの最新ニュース提供 (2015 年 3 月 9 日) 本部への会費送金 (2015 年 4 月 23 日)	フォンテスへの最新ニュース提供 (2016 年 3 月 1 日) 本部への会費送金 (2016 年 3 月 25 日)

資料②

2015年決算

IAML2015年決算12月31日(予算額修正)

費目	2015年度		予算決算差額	備考
	予算	決算		
前年度繰越:				
現金	47,044	47,044	0	
郵便局	862,467	862,467	0	
(内 会員会議参加補助基金)				¥327,000
銀行	342,007	342,007	0	
(小計)	1,251,518	1,251,518	0	
収入:				
未収会費				
2014年以前				
個人	18,000	18,000	0	
団体	0	0	0	
会費2015年				
個人	0	114,000	-114,000	
団体	0	14,000	-14,000	
利息	30	43	-13	
会費2016年				
個人	336,000	210,000	126,000	個人56 → 57
団体	252,000	266,000	-14,000	団体18 → 20
雑収入	0	3,746	-3,746	
(小計)	606,030	625,789	-19,759	
会員会議参加補助基金	0	0	0	
会員サポート・支部活動支援基金		59,000	-59,000	
(収入小計)	606,030	684,789	-78,759	
収入総額	1,857,548	1,936,307	-78,759	
支出:				
本部宛会費送金	366,080	366,080	0	2816.00EURO/1EURO=130.00YEN
予備費	30,000	10,000	20,000	
経常経費:				
RILM分担金	60,000	60,000	0	
RILM Fontes編集委託費	40,000	40,000	0	RILMに委託しているFontesのための編集に対して
大会代表派遣費	100,000	100,000	0	
関連団体会議参加費	10,000	0	10,000	
ニュース・レター	70,000	74,233	-4,233	
会議費、例会費	30,000	10,580	19,420	
交通費	30,000	22,290	7,710	
通信費	80,000	55,461	24,539	
消耗品費	10,000	1,080	8,920	
雑費	5,000	3,148	1,852	
アルバイト代	10,000	0	10,000	
HP運営費	25,000	24,624	376	ドメイン利用料年額
(経常経費小計)	470,000	391,416	78,584	
会員会議参加補助基金	100,000	0	100,000	
支出総額	966,080	767,496	198,584	
次年度繰越	891,468	1,168,811	277,343	

次年度繰越金	
現金	23,296
郵便局	785,897
(内 会員会議参加補助基金)	
銀行	359,618
総額	1,168,811

(¥327,000)

IAML日本支部の2015年会計
 明細書と精査した結果、
 適正に処理・記載されている
 と認めます。

2016年5月9日

IAML日本支部会計監査

加藤信吉



資料③

2016 年予算案

費 目	2016年度予算	2015年度決算	差額	備考
前年度繰越:				
現金	23,296	47,044	-23,748	
郵便局	785,897	862,467	-76,570	
(内 会員会議参加補助基金)				¥327,000
銀行	359,618	342,007	17,611	
(小 計)	1,168,811	1,251,518	-82,707	
収入:				
未収会費(2015年以前)				
個人	12,000	132,000	-120,000	
団体	0	14,000	-14,000	
会費2016年				
個人	0	210,000	-210,000	
団体	0	266,000	-266,000	
会費2017年				
個人	342,000	0	342,000	個人57
団体	280,000	0	280,000	団体20
雑収入	0	3,746	-3,746	
利息	30	43	-13	
(小 計)	634,030	625,789	8,241	
会員会議参加補助基金	0	0		
会員サポート・支部活動支援基金	60,000	59,000	1,000	
(収入小計)	694,030	684,789	9,241	
収入総額	1,862,841	1,936,307	-73,466	
支出:				
本部宛会費送金	382,531	366,080	16,451	2990.40EURO/1EURO=127.92YEN
予備費	50,000	10,000	40,000	↑
経常経費:				
RILM分担金	80,000	60,000	20,000	↑
RILM Fontes編集委託費		40,000	-40,000	↓
大会代表派遣費	100,000	100,000	0	
関連団体会議参加費		0		↓
ニューズ・レター	60,000	74,233	-14,233	↓ ¥20,000×3回
会議費、例会費	30,000	10,580	19,420	
交通費	30,000	22,290	7,710	
通信費	60,000	55,461	4,539	↓
消耗品費	60,000	1,080	58,920	↑ 封筒印刷 ¥50,000
雑費	5,000	3,148	1,852	
アルバイト代	10,000	0	10,000	
HP運営費	25,000	24,624	376	
(経常経費小計)	460,000	391,416	68,584	
会員会議参加補助基金	100,000	0	100,000	
支出総額	992,531	767,496	225,035	
次年度繰越	870,310	1,168,811	-298,501	
(内 会員会議参加補助基金)	227,000	327,000	-100,000	

↑、↓は前年予算との比較



事務局だより



2017 IAML Congress, Riga - 発表募集中

2017年のIAML国際大会は、6月18日(日)より22日(木)までラトヴィア共和国リガ市で開催される。会場はラトヴィア国立図書館。現在発表を募集中である。テーマは、図書館、アーカイヴ、ドキュメンテーション・センターにおける音楽資料、および音楽関係書誌、目録、分類、楽譜のデータ変換(music encoding)、著作権、ミュージック・ライブラリアンの養成・研修、資料利用と公開、音楽研究、特別コレクション、演奏会資料、デジタル資源に関するもの。発表は質疑応答を含めて30分。言語は英語、ドイツ語、フランス語のいずれか。発表希望者は要旨を添えて本年11月1日までに申込みこと。発表者には12月31日までに通知がある。申込みは下記サイトまで。<http://www.iaml.info/call-for-papers>

ポスター(展示)・セッションの応募要領も同様である。展示パネルは図版とテキストによって構成する。発表者は解説および質問等対応のため、指定された時間帯は会場に詰めていることが義務。<http://www.iaml.info/de/call-for-posters>



ラトヴィア国立図書館

国際音楽学会(IMS)東京大会

国際音楽学会 International Musicological Societyの大会が、来年3月19日(月)より23日(金)まで、東京藝術大学で開催される。大会は5年ごとの開催で来年が第20回。アジア地域での開催は初めてのことである。

大会テーマは「音楽学：理論と実践、東と西 Musicology: Theory and Practice, East and West」。大会組織委員会(渡辺裕委員長)により数年にわたって準備が進められてきたが、この程最終プログラムが発表された。5日間の期間中、個人発表371、ラウンドテーブル23、スタディ・セッション12のほか、IMS研究グループ、RILM、RISM、RIPM、RiDiMの会合(一部関係者のみ)が予定されている。基調講演は徳丸吉彦(音楽学)、細川俊夫(作曲)の両氏。

現在参加登録の受付中。締切は2017年2月19日まで。参加費は国際音楽学会および日本音楽学会員20,000円、学生会員6,000円、一般30,000円、学生10,000円。本年12月19日までに申し込むと早期割引がある(学会員15,000円、学生会員5,000円、一般25,000円)。プログラムの詳細および参加登録は下記まで。第20回国際音楽学会東京大会公式サイト <http://ims2017-tokyo.org/>

南葵音楽文庫、和歌山へ

「南葵音楽文庫」資料が、紀州徳川家所縁の地・和歌山で保存、公開されることになった。所蔵者である公益財団法人読売日本交響楽団と和歌山県の間で寄託の契約が整ったことが、本年6月発表された。和歌山県は6月議会で補正予算を可決、県立図書館が受入と公開に向けて書庫の整備と約2万点の図書楽譜について目録データの作成を開始している。公開日は現時点では明かにされていないが、データ作成の完了した部分から順次公開されるという。

IAML 日本支部第 61 回例会

日本支部第 61 回例会を下記の通り開催致します。一般の方も大歓迎です。お誘い合せの上是非ご参加ください。

日時 2016 年 11 月 6 日 (日) 13:30-16:30

会場 東京芸術劇場小会議室 5

【発表】「音楽資源のためのジャンル / 形式用語マニュアル」出版の意義

島海恵司、田島克実 (株式会社トッカータ)

【報告】IAML ローマ大会参加報告

久保絵里麻、山本宗由

玉川大学教育博物館「ガスパール・カサド 原智恵子コレクション目録」公開

玉川大学では 1990 年にチェリスト、ガスパール・カサド (1897-1966)、ピアニスト原智恵子 (1914-2001) 夫妻の音楽活動関係資料を受贈して以来、教育博物館において資料の調査研究と整理をすすめてきたが、この程コレクション目録を完成、全資料が公開されることになった。本年は夫妻の記念の年でもあり、10 月に「ガスパール・カサド没後 50 年 原智恵子没後 15 年記念祭」が開催される。行事日程は次の通り。

特別展「デュオ・カサド」2016 年 10 月 17 日～2017 年 1 月 22 日 (玉川大学教育博物館)

記念シンポジウム (日本音楽学会東日本支部特別例会) 10 月 22 日 (土) 14:00 (玉川大学 University Concert Hall 2016)

第 1 部 基調報告 / ラウンドテーブル「音楽家の資料整理と保存」(106 教室)

第 2 部 実演付き解説・演奏 (大ホール)

入場料 無料 (申込み制 日本音楽学会員を除く)

記念演奏会 10 月 23 日 (日) 14:00 (大ホール)

曲目 カサド「無伴奏チェロ組曲」ほか。

演奏 堤剛 (チェロ)、中井正子 (ピアノ)、野本由紀夫指揮、玉川大学管弦楽団、ほか

入場料 5,000 円 (全席自由)。詳細は下記まで。
<http://www.tamagawa.jp/campus/museum>

民音音楽博物館音楽ライブラリー臨時休館

民音音楽博物館音楽ライブラリーは消火設備改修のため、10 月 2 日 (日) より来年 2 月 1 日 (水) まで臨時休館する。博物館は通常通り開館。現在「楽譜が伝える空間の芸術」展を開催中である (来年 1 月 29 日まで)。詳細は同館サイト参照。<http://museum.min-on.or.jp/>

国立音楽大学附属図書館リニューアル

国立音楽大学附属図書館は、現在、耐震工事のため施設の部分公開にとどまっているが、11 月中旬に内装を一新して全面公開される。外部利用者への公開は 11 月 21 日 (月) より。詳細は下記まで。<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/>

IAML 日本支部総会終了

6 月 18 日 (土) に開催された支部総会は出席者 22 名を数えた。一般の方々の見学もあり、うち、おひとりは総会終了後入会された。なお、総会で出された要望、および総会後の例会における発表「『若手・中堅会員による検討会』からの提案」を受けて、7 月に役員会を開催、検討した。

2017 年度支部選挙委員

2017 年は日本支部選挙の年にあたる。役員会では規約に基づき選挙委員 3 名を次の通り選出した。林淑姫 (委員長)、稲葉良太、田島克実

新会員 杉野美緒氏

Newsletter - 国際音楽資料情報協会日本支部
第 58 号

2016 年 9 月 30 日発行

国際音楽資料情報協会 (IAML) 日本支部
〒171-8540 東京都豊島区南池袋 3-4-5
東京音楽大学付属図書館内
<http://www.iaml.jp>